学生団体　ユース・フォー・大船渡
Youth for Ofunato
~大船渡と私たちの未来のために~

2021 年 3 月 23 日

「未来を灯そう～越喜来 3.11～」活動報告書

1.　企画概要

震災 10 年の節目に、地域住民と越喜来地区を中心とした中高生とともにコロナ禍においても実現可能な地域活動を、鎮魂の意を込めて企画・実施した。中高生を中心とした地域住民の交流機会創出、地域活動の担い手育成を狙いとし、毎年実施しているペットボトル灯篭プロジェクトの一環として本企画を行った。具体的には、地域住民・中高生との企画検討会を実施し、Youth for Ofunato が現地活動を自粛した際にはオンライン参加とした。準備段階では越喜来 3 地区で灯篭作成会を実施したほか、越喜来小学校や高田高校協力のもと合計 852 個のペットボトル灯篭が完成した。これらを 3 月 6 日(土)～11 日(木)に県道へ設置した他、11 日(木)には灯篭文字パネルとして未来へのメッセージを発信し、防潮堤に約 500 本を設置した。

2.　開催までの経緯

当初は 3 月 7 日(日)に旧越喜来中学校体育館・三陸公民館大ホールにて開催を予定していたが、市の感染拡大防止特別期間等を理由に学生の現地活動の自粛を決定した。変更前と変更後のプログラムは以下の通りである。

＜変更前＞	＜変更後＞
東日本大震災供養祭	別枠実施
灯篭文字パネル点灯式	形式変更の上実施
「思いを記そう」写真展	中止
ペットボトル灯篭設置点灯 （県道、三陸公民館付近）	ペットボトル灯篭設置点灯 （県道、防潮堤、未音崎）

3.　実施期間・実施主体

約 6 ヶ月間（9 月 13 日(日)～3 月 25 日(木)）

日程	内容	場所
9 月 21 日(月)	第 1 回三陸港まつりのみらいを考える会	オンライン
11 日 1 日(日)	第 2 回三陸港まつりのみらいを考える会	大船渡市防災観光交流センター
12 月 20 日(日)	未来を灯そう～越喜来 3.11～第 1 回企画検討会 (旧称：第 3 回三陸港まつりのみらいを考える会)	三陸公民館
1 月 17 日(日)	第 2 回企画検討会	オンライン
2 月 14 日(日)	第 3 回企画検討会*	三陸公民館
3 月 8 日(月)	灯篭文字パネル作成作業	西区公民館
3 月 11 日(木)	未来を灯そう～越喜来 3 .11～	未音崎、防潮堤

＊大船渡市クラスター発生のため中止

【共催】
三陸港まつり実行委員会、越喜来地区公民館、浦浜・泊まちづくり委員会
Youth for Ofunato、岩手大学研究支援・産学連携センター 復興・地域創生ユニット
【協力】
浦浜念仏剣舞保存会、金津流浦浜獅子躍保存会
県立高田高校、越喜来小学校
【企画参加中高生】（五十音順・●印付きの生徒の感想は別紙参照）
●石川大地（南区・高田高 2 年）
●及川正嗣（西区・高田高 2 年）
●葛西日向（仲区・大船渡高 2 年）
葛西姫依（仲区・大船渡一中 1 年）
神津心（仲区・大船渡一中 1 年）
●神津凛（仲区・大船渡高 2 年）
●田端里帆（甫嶺・高田高 1 年）
●千田航（陸前高田市・高田高 1 年）
●地舘凪海（東区・大船渡高 2 年）
●千葉愛（綾里・高田高 1 年）
冨澤舜基（崎浜・大船渡高 2 年）
【Youth for Ofunato】
及川奈津子（代表・3 年）
小田佳祐（副代表・2 年）
青山夢（4 年）
吉田綾菜（4 年）
黒田桐子（2 年）
岩田真悟（1 年）
岸本美鈴（1 年）
新井真由子（1 年）
湯浅拓也（博士 3 年）
船戸義和（アドバイザー・岩手大学）

4. 実績

【ペットボトル灯篭作成実績】

場所	実施日	参加者数（のべ）	灯篭作成個数
仲区	1 月 10 日	12 名	120 個
泊区	1 月 24 日～2 月 11 日	58 世帯	74 個
南区	2 月 7 日	13 名	130 個
西区	2 月 27 日	1 名	5 個
崎浜	2 月 3 日、2 月 18 日	43 名	73 個
甫嶺			50 個
越喜来小学校	随時	約 50 名	200 個
高田高校	12 月 10 日、2 月 15 日～2 月 19 日	13 名	200 個
合計		名	852 個

【メディア掲載一覧】
・岩手日報「鎮魂、希望、ともす越喜来　3 月に大船渡で地域参加型イベント」（2021 年 2 月 20 日）
・NHK 盛岡「午後 2 時 46 分　各地で祈り」（2021 年 3 月 11 日）
・NHK 盛岡「傷ついたふるさとに灯火を　若者たちの奮闘」（2021 年 3 月 12 日）
・岩手日報「防潮堤を照らす灯籠」（2021 年 3 月 12 日）

以下は、「未来を灯そう～越喜来 3.11～」に参加した高校生が約半年間の活動を通じて得た学びや気付き、感想。

活動を通じて得たこと

西区・高田高 2 年　及川正嗣
地域の大人の人たちと対等な立場で話し合った時に、高校生の意見に少しでも耳を傾けてくれる姿を見て嬉しくなった。それぞれが違う観点を持っていることから、人と話し合って企画を進めることの大変さと有意義さを知った。改めて地域の人たちの団結力を知った。半年間もかけて何度も壁にぶち当たることもあったけど、小規模とはいえ無事に成功させることができて達成感に満ち溢れている。これからも何らかの形で地元に関わりたいと強く思う機会になった。

陸前高田市・高田高 1 年　千田航
この企画を通して感じた事は、地域との繋がりです。私は地域のために協同して何かに取り組むことが初めてで、震災から 10 年の節目として越喜来の鎮魂のためにこのプロジェクトに参加していろんなアイデアや震災の想いを巡らせることができました。企画の中にある内容にも狙い・設定理由などちゃんとした意図を持って取り組むことが大切なのだとわかりました。10.20 年後と、今の私達が将来の若者として地域のために新しい工夫を取り入れられるように今後の活動に役立てたいと思いました。

綾里・高田高 1 年　千葉愛
この企画を通して自分の意見を言えるようになり、自分の成長を感じた。地域としての団結力も高まったと思う。地域の人などと接していてコミュニケーション能力を高められた。区長さんとは検討会を通じて意見を言って、変えて、様々なことをして考えて大変だったけど、大変さが成功に通じたと思う。長い期間を経て、コロナということもありながらできた方かと思う。次は、今の企画より良いものを作りたい。考えたい。今回の反省を活かし、連絡は早めに行うことを心がけたい。

甫嶺・高田高 1 年　田端里帆
今回の企画を通して、地域の方と連携して 1 つのイベントの成功に向けて取り組む事の大切さを学ぶことができました。

仲区・大船渡高 2 年　神津凛
この活動を通して、地元の方々との繋がりの大切さを学びました。また、自分が思っている以上に多くの方々が関心を持ってくれているということに気づきました。

仲区・大船渡高２年　葛西日向
立案・具体化・現場調整など、企画を行う上で通る場面に立ち会えたことで、１つの物事を成し遂げることの難しさを実感した。今回ネックになったのは「企画の決定方法」と「突発的アクシデント」だ。前者について、YfO では一つの物事の決定に全員の同意を得る方針で話し合いを進めていたが、今回その方法を採ったことにより企画の詳細を詰める段階で大幅に遅れをとってしまった。もちろんその方法がまずいというわけではないが、役割ごとの小グループで協議した内容を全体に提案する仕組みを作ったり、全員に意見を問うべき項目を見極めたりする必要があった。後者は、市内でのクラスター発生と感染拡大防止特別期間による公共施設の閉館措置である。この２つによって、大学生と船戸先生は現地活動を自粛せざるを得なかった。現場の高校生と地域住民がほとんどの現地作業を行う状況になり、また感染リスクを抑えるために屋内での活動を取りやめることにもつながった。当日の作業人数が不透明で屋内の企画は実施できないため、必然的に企画の半分を停止せざるを得なかった。これは実際にやってみなければわからない「経験」である。とてもよい学びになった。

南区・高田高２年　石川大地
今回のことを通して運営側の大変さと地域の大切さを改めて知ることができました。今回はコロナで自分達が動くことが多かったです。計画をたてたり作業したり地域との連携を取ったりするのが大変だなと感じました。また、地域の人たちは積極的に参加していただき様々な作業をしていただき感謝しています。震災から 10 年ということでこのようなイベントができて良かったと思います。また、越喜来が復興と活気のきっかけに少しでもなったと思います。自分たちで作業しできた時の達成感はとても大きく良い経験ができました。大学生の皆さんにも感謝しています。自分も将来このようなことをし、地域を盛り上げていきたいと思いました。